

現代用語



自由国民社版

時代の鼓動を反射する新語外来語の宇宙・
「辞典で事典で史典」の機能的な新編集

の

基礎知識

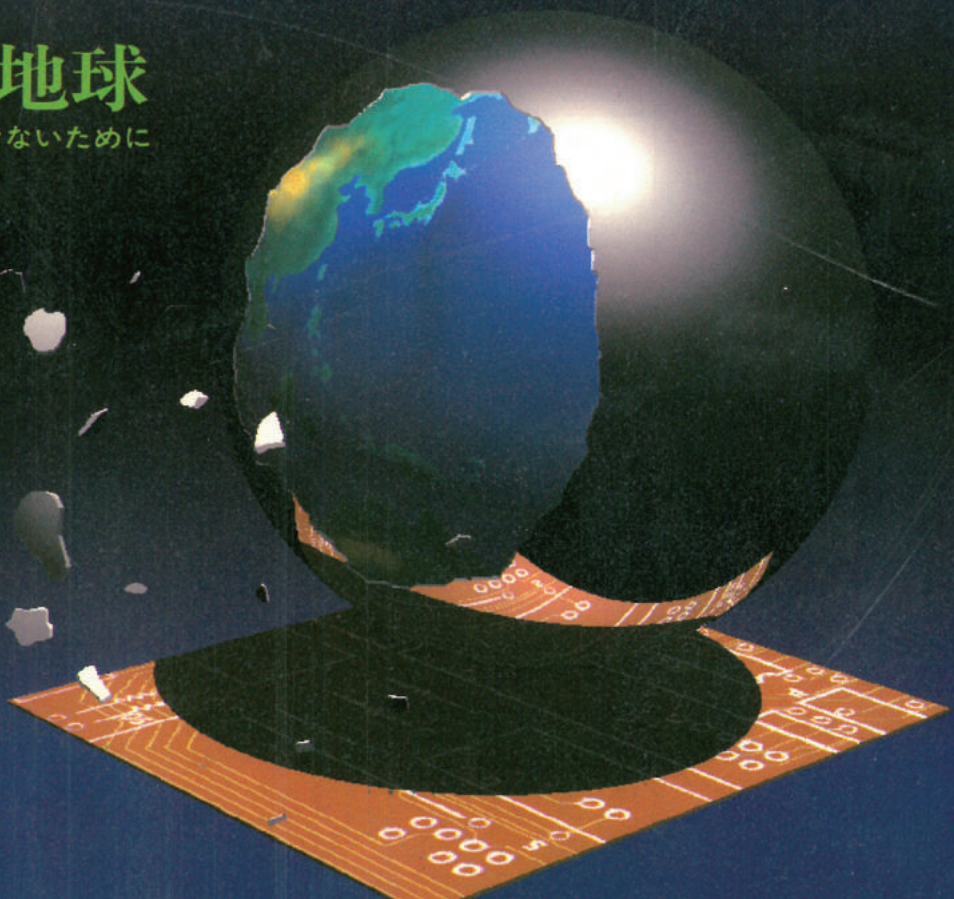
1985

別冊付録 昭和20年から59年まで
戦後ランキング事典

巻頭カラー特集

サバイバル地球

この巨大な生命を枯渇させないために



高度情報化社会の
漠然とした不安を考える用語集

80年代・軽チャー文化の
ヒーローを分析する用語集

この巨大な生命を枯渇させないために 地球生命体に現れた様々な危機のシグナル



環境変化と気象の異変

農林水産省
農業環境技術研究所気象管理科科长
内嶋善兵衛

食糧生産と環境

農業すなわち食糧生産は、地球上の自然環境で決まる植物生産力、作物と技術の力で食糧・飼料および有用産物に変換することである。それゆえ、食糧生産は基本的には自然環境の適・不適に大きく支配されている。農業を憶えてから約一万年といわれているが、人類は多くの経験のなかから、それぞれ自然環境に適した作物・品種を選び、栽培法を工夫してきた。これが農業の基本である「適地適作」の始まりである。世界の農業様式をみると、冷涼で雨の比較的少ない地帯にはコムギ栽培帯が、高温・多雨の地帯にはイネ栽培帯が発達している。そして、それらの食糧生産様式の違いを背景に、それぞれ異なった文明が築かれてきた。しかし、農業技術の発達、人口増の圧迫、国際交流の緊密化に伴って、各地の農業様式の独自性は昔ほど明確ではなくなっている。と

いても、農業が自然環境の制約から抜け出たわけではない。自然環境の比較的似た地域の農業が類似してきただけである。それゆえ優れた品種、高い水準の農業技術をもつても、広い自然の中で行われる農業を、変動きわまりない自然環境の猛威から保護することは、むずかしい。このことは、日本での四年続きの冷害や米ソにおける熱波による不作の頻発を見ればすぐわかる。

しかも一九七〇年代に入ってから異常気象の頻発が続き、人間活動による大気中のCO₂濃度上昇は加速され、酷使のために土壤に疲れが現れ始めている。今世紀末に約六〇億、二一世紀前半に約八〇億になろうとする世界の人口を考えると、以上のような生産環境の変化は大変心配される現象である。

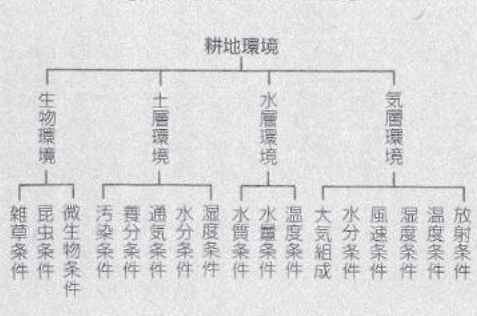
生産環境の機能となりたち

農作物は周囲の環境とエネルギーと物質を消費にやりとりしながら生長を続け、収穫物を生み出している。それゆえ、作物にとって周

- ① 圃の生産環境は次のような三つの機能をもっていると考えられる。
- ② 環境は作物が生長し活動する場である。
- ③ 作物の生長に必要なエネルギー・物質が貯えられている貯蔵庫である。
- ④ 作物の必要に応じてエネルギー・物質が作物へ出入りする経路である。

この三つの機能が順調に発揮される時、作物はよく生長し、豊かな稔りをもたらしてくれる。作物の生産環境はどのように作られているのだろうか。表に示されているように、それは気層・水層・土層・生物の四サブ環境から構成されている。これらのサブ環境は

【耕地環境の構成要素】



独立して存在し、生産環境に作用しているのではなく、各々の間にはシームレスな作用・反作用の関係が多数働いている。それらの働きの総合結果として、作物生産を左右する耕地環境が成り立つので

地球上の気候を左右する大噴火

ある。この相互作用は、地表面近くにおけるエネルギーと物質の流れと交換とを通して維持される。人間の活動とくに工業生産活動の規模が小さかった頃には、農業生産環境の形成は、主として自然の要因に支配されていた。しかし、最近のように人間活動が地球規模にふくれ上り、多量の熱と廃棄物を環境内へ放出するようになると、自然の営みもいさなな面々とまごいを見せ始めてきた。そのあらわれが、大気汚染・酸性雨・水質汚染・土壌汚染・CO₂濃度上昇・異常気象の頻発などである。これは、農業にとってかけがえない生産環境が次第に人間活動の影響下に入ってきたことを意味している。

多量な火山ガスを成層圏まで吹上げて、濃密なエアロゾル雲を形成させる大噴火は、地球上の気候を変化させる有力な自然の原因の一つである。成層圏にできたエアロゾル雲は、太陽からの光を反射・散乱させる。このため地球表面に達する太陽光が少なくなり、地表近くの気温が低下するということになる。図のように、大噴火の多い時代には北半球の平均気温は低くなり、噴火が無く大気層が澄んできた時高くなっている。一九八一年は、ここ約一〇〇年の間で最も高温になったが、八二年初めの工ル・チチヨン火山噴火後は急激に低下した。



資源の偏在と枯渇

三菱総合研究所産業構造研究室

藤田 渉

石油ショック・その後

あれだけの危機感をもたらした石油ショックから一〇年を経て、世の人々は、いずれ枯渇することを漠然とは感じながらも、再び安定したかに見える石油の供給に安住しつつあるようだ。時おり遠雷のように轟く中東の砲声にふと思いついたように顔を合わすことはあるが、「油断」の報いは再び訪れるのだろうか。

確かに情勢は大きく変化したといえよう。過去の危機は、政治的に不安定要因を持ったOPEC諸国への資源の偏在、そして「あと三〇年」といふ言葉に象徴された暗澹たる石油埋蔵量の有限性推定に対して、過度の石油依存下にあった各国が過敏に、しかもよくよく反応を示したことにより生じたといえよう。さらに消費者の稚拙な対応は、一時産油国カルテルの跳梁を許すこととなった。その後も石油資源の偏在と有限性の認識は、省エネルギー努力の限界感と、先進

国以外の石油需要増加見通しと相まって、今なお、希少な石油をめぐる売手市場下に再び強力な産油国カルテルによる価格高騰、あるいは資源延命政策等による供給不安が起るといふ見方を一般化させた。その結果、現在の価格軟化を二時的なものとする向きも多い。しかし現在、そんな将来の危機の可能性を予見しながらも「盲信」としての危機不可避論は徐々に影をひそめつつあると言えよう。

石油危機状況の変化

危機の根拠としての産油能力の偏在性と不安定性、そして急激な資源絶対量の逼迫の可能性については状況は変化している。それは過剰産油能力と埋蔵量の余裕が認識されてきたことによるだろう。

今やOPEC加盟国は、全産油国七〇余国中一三カ国にすぎず、また三分の一を占めていた産油量シェアも低下傾向にある。そして自由世界の産油能力の稼働率の低さ(四分の三程度)と、他の石炭、天

然ガスといった主要エネルギー資源の生産もフル稼働からは程遠いという事態は、カルテルによる高価格維持に対して大きな負要因になりつつある。

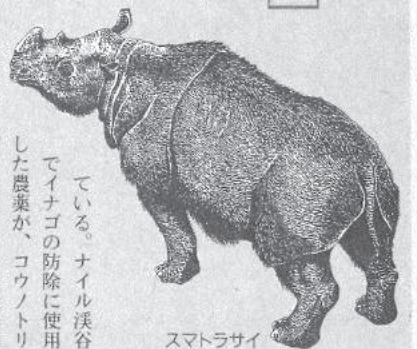
また、かつて年間三〇億トンに近かった年間世界石油消費量は約二億三億トンにまで減少してきた。これに対し石油産業の保有する追増埋蔵量がこの消費量を上回っているだけではなく、地理的に分散化傾向を強めており、またこれらの生産が高コスト化する根拠は薄弱という見方もある。この埋蔵量と消費のバランスからは、厳しい予測でも、今世紀中の枯渇の恐れは考えられない。

この結果、短絡的な石油危機神話はその根拠を失う事となった。しかしこれは決して安堵できることではなく、埋蔵量の推定自体が依然「警告」であることは変わりがない。抜本的な代替エネルギー開発にとつてはわずかな猶予の延長にすぎないかもしれない。また短期的には経済的なバランスよりも、中東問題といった政治的要因により、価格、供給が左右されることは言うまでもない。

世界の石油事情と日本

世界的な石油事情に、ある程度の余裕が生じていることは前述の通りであるが、この事を、世界に冠たる無資源、大量消費国家であるわが国がそのまま受けとめられぬのは自明である。かつて第一次

「絶滅に瀕する野生生物」



環境の変化に対して、多くの動物は人間よりもはるかに抵抗力がない。今世紀に入ってから「ずつと世界のどこかで平均一年に一種の動物が静かに退場している。アメリカ内務省のリストによれば、哺乳動物、鳥、魚を合計すると、一〇〇種以上が絶滅の危機に瀕しているという。アジアでは、農耕地の拡大が動物の棲息地を破壊して、彼らの「種権」を脅かしている。なかでも有名なのは、ベンガルのトラや黒ヒョウ、インドのサイである。スリランカは約



三〇年間で人口が二倍に増加したが、その反面、野生象は半減してしまった。インドネシアでもオランウータンの生存数は極めて少なくなっている。野生動物の種類と数の点で世界的にもっとも有名な東アフリカも、人口増加による農地の拡大が禁猟動物を侵害し始め

ている。ナイル河谷でイナゴの防除に使用した農薬が、コウノトリを殺している。コウノトリの掃蕩を国家的行事として祝福する習慣のあるデスマークでも、コウノトリは激減している。ソ連「ブラウダ」紙も農業の野生生物に及ぼす害を指摘して、カモ猟の解禁を中止したことがある。アメリカでは国家の紋章となっている白頭ワシが、農薬のため絶滅に瀕している。

すべての生物は、人間との相互連関によって人間の生存に不可欠であるばかりでなく、人間の驚異や苦しみや教訓の源であるとすれば、野生生物の滅亡はそのありのままの生存記録がでないうちに、人間の潜在的経験の広大な領域を消失させてしまうことになる。一旦、破滅されたら、これらの種族を人間が再生することは、いまのところほとんど不可能に近い。この傾向は地球規模での協力によってのみ逆転することができるのである。

石油ショックにおいて、世界にその醜態を曝したわが国民も、第二次ショックは冷静に吸収し、わずかの間の民度の成熟は目を見張るものがあった。しかし、金さえ出せば必要資源は入手できるというエネルギー情勢のおかげで、「警告」が「安堵」に風化しつつあるようである。おそろしくこの石油事情の軟化はわが国にとって一種の神風のようなものであり、中・短期的な対策とともに、この遷世紀期にポスト・オイルへのソフトランディングを指して代替エネルギー開

高度情報化社会の漠然とした不安を 分析する用語集

一橋大学教授
堀部政男

●はじめに

二〇世紀もあとわずか十数年を残すだけとなり、新しい二一世紀もすぐそこまで近づいてきている。この二〇世紀末の十数年間は、二一世紀型社会に向けての準備期として特徴づけることができるであろう。その準備期から二一世紀初頭にかけて現出するであろう社会は、そこで重要な役割を果たす「情報」に着目して情報(化)社会、高度情報(化)社会などと称せられ、また、それを支えるニューメディアに重点をおいてニューメディア社会などと呼ばれている。ニューメディアによってたらされる新しい社会はバラ色に描かれる、その光の部分が強調されているが、影の部分があることも認識し、それを克服しなければならぬので、ここでは、ニューメディアの説明をしたあと、高度情報化社会の課題のいくつかを取上げて、問題を指摘することとする。それは、もっぱら筆者の専門領域である法律学の観点からする、筆者なりの問題指摘であることをあらかじめお断りしておきたい。また、関連する項目として、「情報化社会用語」「法律用語」などもあわせてお読みいただきたい。

高度情報社会と ニューメディア

ところで、今日広く使われている高度情報(化)社会は、従来のように、物の生産、分配、消費等が社会を動かす主要な要因で

あったのとは異なり、それを基礎にしながらも、無形の情報の収集、伝達、享受等が社会の重要なエレメントになった社会である、といえる。それは、情報というものの社会的・経済的・財産的価値が高まってきたものとして特徴づけることができる。この社会を支えるニューメディアは、従来のメディア(オーディオメディア)とは質的に異なり、①メディア間の融合、②双方向性、③パーソナル・コミュニケーションの併用等の特徴を備えるものである。これは、一般的には、現代から近未来にかけての高度情報(化)社会を支えるネットワーク構成媒体であるといえるが、シンボリックには、新しい時代の到来を表象するマジック・ワードであることとらえることができる。この定義のうち、

ネットワーキング構成媒体としてのニューメディアは、新しい時代を支える基礎であると同時に、社会のあらゆる面に浸透するさまざまなシステムとその内容をも包摂するものとして使うことが可能である。このようなニューメディアは、最近では、インターネットラックチャー(基盤としてのニューメディアとアプリケーション(応用)としてのニューメディアに分けられる場合がある(テレトピア懇談会中間報告)。ニューメディアの種類としてさまざまなものがあげられているが、それらをこの分類方法にあてはめるならば、理解しやすくなるであろう。しばしば見掛けるニューメディアを分類

すれば、次のようになる。

- インフラストラクチャーとしてのニューメディア
- ▽INS
- ▽キャブテン(ビデオテキスト)
- ▽双方向CATV
- ▽VAN (Vairud Added Network)
- ▽LAN (Local Area Network)
- ▽VRS (Video Response System)
- ▽フックシミリ
- ▽データ通信
- ▽衛星通信
- ▽移動通信
- ▽私設電気通信
- ▽文字放送
- ▽衛星放送
- ▽アプリケーションとしてのニューメディア(比較的身近なもの)
- ▽地方自治体と住民間のコミュニケーション・システム
- ▽在宅公共サービス・システム
- ▽地域社会セキュリティ・システム
- ▽障害者受信システム
- ▽ホームバンキング・システム
- ▽ホームショッピング・システム
- ▽ホームリザーベーション・システム
- ▽ホーム健康管理システム
- ▽ホーム健康診断システム
- ▽ホーム医療システム
- ▽ホームセキュリティ・システム
- ▽ホームインフォメーション・システム

これらニューメディアについて

ては、本書の関連分野で説明されている場合があるが、ここでも、インフラストラクチャーとしてのニューメディアのうち、INS、キャブテンおよび双方向CATVについて少し説明を加えることにする。

代表的ニューメディア

INS(高度情報通信システム)

高度情報化社会のインフラストラクチャーとしてのニューメディアのうち、特に注目を集めているのは、INS(Information Network System)の略、高度情報通信システムである。これは、通信網をデジタル化して結合し、さらにコンピュータと結合し、多種多様な端末機を通して、電話のみでなく、多彩な非電話系サービスを自由に、かつ、低廉な料金で利用できるようなシステムである。すなわち、これまで別々のネットワークで構成されている電話、フックシミリとコンピュータなどの通信回線を一本化し、回線の共有化、効率化を図ることにより、経済的な料金で電話機、フックシミリ、データ機器、映像機器などの多様な情報機器を自由に選んで一本の電話線(光ファイバー)に接続して使えるシステムである。電電公社の計画によると、INS実現へのステップは、次のようになっていく。

一九八〇年代前半(昭和五〇年代後半)——INSの土台づく

'80年代 軽チャー文化のヒーローを 分析する用語集

法政大学教授
中野 収

さわやかな 軽評論家たち

六〇年代は、端的にいつて文明という面では高度成長と公害、文化という面では戦後世代の登場と新しいライフスタイルの創造によって特徴づけられる。というわけでまさに激動の時代であった。ドルショック、オイルショックに始まる七〇年代は、六〇年代に発生したさまざまな問題を整理し調整する成熟の時代であり、六〇年代のおまけといわれている。八〇年代は、さらにそのおまけであって、文化的には退廃現象が顕著になる。退廃期には退廃期らしいものが流行る。とるにたらしめ細なことにこだわりの、かつそれを楽しむ姿勢、ものの役に立たぬ自己目的な行動にふけるしぐさ、道徳、倫理から逸脱するかしな

いかのところで生活を享受するそぶり、社会的富の生産(にたずさわるもの)を軽蔑し、消費と遊び(に専念するもの)を尊重する態度等々は、退廃期を示すライフスタイルである。人間に異様な関心がもたれるようになるのも、こういう時代だからだろう。某週刊誌がいうように「今、一番、人間が面白い」のである。「もの」よりも、「こと」よりも、「こと」よりも、「こと」よりも、事件、出来事よりも、人間が面白い。取材をすすめても新しい情報があるわけでもない三浦某を、数カ月わたってテレビ

集記事が追いかけているのなどは、その端的な例である。どうみてもことごらの重要さと報道の態勢・規模が、アンバランスなのである。視聴者・読者が、異常な関心をもっているとしてもしなければ、この事態は説明がつかない。

文化の領域での八〇年代の大きな特徴のひとつは、広義の大衆芸術の裏側にいた演出者、裏方、黒子が、あいついで花道に登場し、その「素顔」を観客にさらしはじめたことだろう。コピーライター、イラストレーター、編集者が表舞台に現れ、新聞記者が署名記事を書き、放送記者・ディレクターが声や姿で出演するようになった。ひとつとが裏方の顔をみたくなったのである。「でたがり」は、ひとり女子大生ばかりではなく、一億総「でたがり」であり、そしてこのことは、一億総「みたがり」意識と対応している。嵐山光三郎は、文化の退廃期に固有のさまざまな傾向を体現したユニークな存在である。元来は編集者なのだが、瑣末なこと

にこだわって、その極小のリアリティを面白おかしく表現する軽妙な文章の書き手として登場し、ブラウン管に独特な話術を披露し、CMに出演している。「存在感」などといわれる重剛で深刻な印象はない。しかし、軽くてさわやかな感じは、ユニークであり、嵐山の個性であろう。一方で、嵐山自身が瑣末にこだわって面白がり、他方で、その嵐山が身体とことばで表現して

る、軽くてさわやかでとるにたぬものに視聴者・読者がこだわり面白がり、さらに、嵐山という存在を面白おかしい人間とみて、関心を寄せる。ともあれ、八〇年代らしい人物である。本人は認めたがらないらしいが瑣末と軽妙を体現した文章スタイルを作った代表者が、椎名誠である。飲み屋での仲間うちのおしゃべりを文章化した「昭和軽薄体」には、難解な漢語とロレツのおかしい日常会話用語が混在し、奇妙だが魅力のある雰囲気がい、しかも文章の細部にキラキラと輝く小さな現実感覚が顔をのぞかせている。その文章のスタイルは、どんなジャンルにも属さないもので、スーパーエッセイといわれている。若者たちが椎名を読んだのはそのスタイルもさることながら多分に、椎名誠だからなのである。椎名誠が流行っていったのだ。あ

った偉大なリーダーなど必要ないのだ。完璧な美しき、偉大さ、道徳的・倫理的な人格、圧倒的な力と技術、人間を超越した聖性等をもったスターではなく、日常的に手をふれることのできる親しさ、スキヤンダルがいつもまわりにある人間的弱さ、気軽につきあえる軽さをもったアイドルが、ひとつひとつの関心をひく。ヒーローといっても差支えない。しかし、実態は、アイドルという名の人形と戯れている、といったほうが正確である。この点で、かの元首相も例外ではない。八〇年代はやはり、成熟と退廃の時代なのである。

もったのである。イラストレーター南伸坊の人氣も、強烈な個性とはいえないが、人間への好奇心とやさしさをちよつと皮肉をきかせて書いた文章、おにぎり頭が登場する簡潔なイラスト・マンガ、ひょうきんな形態模写、CMでのおどけた演技等々からきている。さまざまなジャンルを軽ろやかにこなすマルチタレントぶりと軽くさわやかなスタイルから、その人柄が読まれ、ひとつひとつの関心をひくのである。八〇年代、ひとつとは、スーパー

ニューアカデミズム の担い手たち

現代の文明社会は、理性にもとづく科学的合理主義で、堅固に制度化された大学アカデミズムを、(知)のひとつの拠点としている。この大学における(知)の効率的運営が、現代文明の形成と維持とに、大きく寄与してきた。しかし、一方で大学は、(知)の刷新を図る営為をみずからの特権とみなして自閉し、多種多様な(知)のありかたを排除してききた。六〇年代、このような大学の制度化された(知)の独占に対し、構造主義・記号論は、未開社会の研究から、近代合理主義の作り上げた理性的存在としての人間概念に根本から修正を迫ることによって、大きなインパクトを与えた。さらには、客観的な

(社名変更話題学)

自然科学的方法をもつとされてきた近代経済学も、経済学者自身によってその虚構性が指摘されるに至っている——佐和隆光『虚構と現実』。つまり、現在、人文科学、社会科学、そして自然科学をもまき込んだ、〈知〉としての近代合理主義、およびその拠点である大学アカデミズムは、大きな転換期にある。ニューアカデミズムとは、このような時代状況に敏感に反応して、アカデミズムのなからから社会に向けて放たれた〈知〉のパフォーマンスである。つまり、アカデミズムの歴史において蓄えられ、近代合理主義を底辺から支えてきた知識を、ひとつの論理＝知恵で組換え、その結果を社会に呈示する行為である。ニューアカデミズムの旗手である浅田彰―彼はニューアカデミズムという名称を嫌っている―は、ポスト構造主義＝脱・構築という現代フランス思想の論理によって、ヘーゲル、マルクス、そしてレヴィ＝ストロースらの思想体系を、新たに組換え、現代の文化・社会を形成する基本原理の説明を試みている。その成果が、ベストセラーとなった『構造と力―記号論を超えて』である。

『文化と両義性』などの著書で知られ、最近の〈知〉のブームを招来し、ニューアカデミズムの舞台演出家が、人類学者の山口昌男である。彼は、「本の問題」というものがもっと立体的に考えなおされる「契機となるよう、『劇場としての書店』の出

現を期待している(『挑発する子どもたち』)。ニューアカデミズムが、書店のイベントブックフェアと連動して現われたのは、この山口の問題意識に沿ったものとみてよいだろう。書店は、大学とは違って、〈知〉が本というかたちで存在し、人の出入りも自由な空間だからだ。ニューアカデミズムというパフォーマンスは、パフォーマーのひとりである浅田彰が、現象として自立化した「A・A現象」と呼ばれたように、現在の〈知〉の状況に一定のアピールをしたことは否定できない。フランス文学者の蓮實重彦(『表層批評宣言』などの著書がある)の弟子筋にあたり、広義の映像評論も手がける四方田犬彦、写真評論の伊藤俊治、そして浅田が編集した『GS(たのしい知識)』が、好調な売れ行きを示したからだ。

ただし、『チベットのモーツァルト』の著者、中沢新一を含めた彼らの著書が、「書店」であるがゆえに、「買う」「行為、あるいは「持ち歩く」さりげなく誇示する」行為としての表面的パフォーマンスを、人に誘発させるだけで終わりがかねないのも事実だ。彼らがアカデミズムのなかに身を置き、アカデミズムが公認する本の「読み方」から逸脱しつつ、孤独なパフォーマンスである「読む」行為を維持した成果、つまりは著書が、その難解さのため「読まれない」行為を引出すだけかもしれないとい

文壇の鬼子たち

かなり前から、学生たちが、小説、とくに純文学作品を読まなくなってきた。結論を先にいえば、作家にヒーローはいない。各時代に、それぞれよく読まれる作家がいたが、それも筒井康隆が最後であった。田中康夫『なんともなく、クリスタル』がベストセラーになって以来、小説のベストセラーが、若者たちのベストセラーがない。筒井・田中の作品が、純文学かどうかはともかくとして、石原慎太郎、大江健三郎、五木寛之が読まれたことがある。その芸術的・文学的価値とは直接関係なく、かれらの作品の中に、時代のしるしが見えたとれたからである。作家たちが、みずからの目によって読みとった時代、時代が作家の心の中につくった心象風景、が多かれ少なかれ書き込まれていいたからである。

ひとびとは、特に若者は、そこみずからの心の風景と共鳴するものを発見したのである。今日、前述の田中にしろ、村上春樹にしろ、橋本治にしろ、島田雅彦にしろ、同じように彼らなりの心象風景を語っていることはたしかである。しかし、数少ないマニアックな固定的ファンはいても、作品が爆発的なベストセラーになる、ということはない、まず起こらない。理由といえば、若者が、小説以外のさまざまなメディアの中に時代のしるしをみるようになったからである。小説と競合しているのは、マンガであり、テレビドラマであり、映画であり、演劇であり、歌である。文学の優越性は消滅し、さまざまなメディア・ジャンル・表現体があつて、文学・小説はそのひとつにすぎなくなつた。若者の代弁者が、さまざまなジャンルに、何人かずついる、ということである。五木寛之も、筒井康隆も、文壇の住人とはいえない。その一角

にいたにしても、ごく周縁のところにかろうじて席があつただけだろう。七〇年代後半になつて登場する高橋三千綱、栗本薫(中島梓)、村上龍等も、文壇主流の評価をえたわけではなかつた。かなり肌あいの違うこの三人にしても、生の現実をリアルに描くという日本の私小説の伝統からは離脱してみずからの心の中の像、心理的イメージを素材にして作品世界を創造しているという点で、共通である。したがって、文壇主流の評価は低いし、当人たちも、文壇内部だけに生息する気もない。むしろそこで、文学以外の他のジャンルにも、自己表出の機会を求めている。映画、テレビ、評論、エッセイ等々。

『なんともなく、クリスタル』の田中は、文壇主流派には思いもつかない小説形式『カタログ小説』を作つて、都市空間の中に浮遊する若者の心性と行動を、見事にとらえてみせた。ここには、伝統的な文学的リアリズムはもうまったくない。全編がすべてさまざまなメタファで書かれている。しかし、そこにある奇妙でたしかなリアリティを、誰しも否定できないだろう。七〇年後半の若者の倦怠と無力、自愛と自虐を、詩的スタイルで描ききつて、一部の文学好き女子学生に人気の村上春樹も、同じようなメタファを駆使する。音楽の作品名とともに、たばこ、バッグ、セーター、嗜好品のブランド名が頻出し、「もの」と登場人物とのかかわ

CI導入のイロハ 大手企業は昭和57年あたりから大変な勢いで社名変更をしているが、これは企業の実体とイメージに大きなギャップがあるということだ。が、大手企業よりもっと切実なのが中小企業。それを証明するかのようCIセミナーが地元で行われると、大変な盛況で、立見席まで出る

高齢化が約10%になり、現代における長生きが諸方面に暗翳を拡げている

高齢化社会用語の解説

吉田 寿三郎 医学博士・日本ウエル・エイジング協会会長



解説の角度

- 高齢化が約10%になり、“ねたきり”から“ボケ”へ認識が進み、現代における長生きが諸方面に暗翳を拡げた。他方、世界的低成長期になお高度成長期からの余裕を引く日本も未曾有の高齢化社会への急行に行政当局が対応の考え直しを始めてきた。
- 欧米に追随、現代工業化は一応の域に達したものの急発展しただけに功罪は幾回も大きい。なかでも高齢化はマイナスのさいたる

ものだが、その欧米の対応が破綻したこと、中央、地方ともに当局は新方向を打ち出すことに四苦八苦していくことになる。

●健康保険本人負担増がこのような苦慮を示すが、中央省庁それぞれに高齢化へ関心を示し、この問題の大きさ、多様性が顕わになってきた。人生80年型余暇、自立自助、PRT、求人求職110番、ミニ老人アパートなど、他方この嵐の中の吹溜りのように商業主義が黄金のシルバー族を狙い、ゲートピアなどの新語もちらほら。

高齢化社会の現状

高齢化 (aging in the high aged society) 長生きの時代では人口構成の歪みの山が高齢化現象を生じる。国連では六

五歳以上が総人口の七〇%以上を占める現象を高齢化という。西欧先進国の例に徴して一五%前後で——ちなみにイギリスは一四%、スウェーデンは一七%の高齢化現象の峠の手前で——彼らの高齢化対策は破綻し反省されている。

日本は近い将来二〇%を越える高齢化へ急行する。そこで欧米の対策を参考にしながらも独自の対応が必須になる。ちなみに八万を割る人口の佐渡島ではすでに二〇%、これは人工長命時代になった上に若者が大都会へ移った結果であるが、その移住先の一つ東京都では最近の一カ年間に六五歳以上の「老年人口」が三万人近く増え、昭和五九年中に一〇〇万を突破すると推算される反面一四歳以下「年少人口」は二二〇万になり、大都市の高齢化も容易ならぬ形相を呈してきた。

熟年 (Best years (50-59 years)) 人生八〇年時代は四五歳から六五歳ぐらいまでは円熟に向う年代として作家・邦光史朗は「熟年」とよび、男は定年、女は子育てを終る時期であって新しい厄年と覚悟して熟年をよりよく生きようとする趣意で「セカンドライフの会」を

つくって、熟年時代の生きかたをお互いに考え学びつつ仲間づくりの場として役立てたいとしている。ちなみに「熟年離婚」が増え「熟年電話相談」一〇番が繁昌(?)している。

人工長命 (man-made long-every) 現代工業は、人力によつて多数のものが七〇歳を越える長生きを享受できる可能性を開いた。これは、ことに——人力開発を裏打ちしたと同じ——専門的に科学を追求する方法を西洋医学が採って極めて優れた抗生物質を創り、自然の厳しい淘汰役であった感染性疾患を強力に制圧できることになったからである。しかし専門制科学のもたらすものはかく不均衡な力でありそれが素晴しければそれだけ逆に厳しさを内蔵しておりやがて暴露してくる。人力による長生きは極めて厳しいものをもつて個々人に迫ってくるが、さらにはこのような長生きが人口構成の歪みと合わさつて生ずる高齢化の進展に伴い社会的に激しさを顕わにしていく。一九八五年頃には「ねたきり」という個々人に迫る、人力による長生きの厳しさが多少認識を広めていたが、なお若さの余韻の多分にある九〇前後の高齢化をもつて二〇%を越える将来の社会的事情を安直に推し計つては、と憂慮し、日本人も人力による長生きを享受できる時代の経験で高齢化の進展に伴い起生する社会的な厳しさと混淆して気を許すことはできない。

ということから人工長命時代という新語を日本ウエル・エイジング協会は昭和五七年の「エイジング」に関する京都国際シンポジウムを契機に使用した。

第IIの人生 (the 3rd life [stage]) 人力によつて長くなった老齢期を印象づけるため、成長期を第一、成熟期を第二そして衰退期を「第三の人生」と、筆者は小学館の『日本老残』では呼んでいるが、A・デーケン上智大学教授著『Growing old and How to cope with it』が『第三の人生』(南窓社刊)と邦訳され、日本老残のそれとほぼ同意である。

孤独/無為 社会保障については、チャーチル・イギリス首相に提出したビバリッジ卿の提案が宝典のように一時は評価され西欧型福祉国家が出現した。彼は五つの社会悪として無智、怠惰、不潔、疾病、貧困を挙げ、この社会的対応を社会保障とうたいあげたが、この恩恵に十分に浴したはずのスウェーデンなどでも老人の多くは毎日日曜という、生産から遠ざけられた日々の無為と孤独に苦しめられてきた。ことに日本の場合は、このような高齢化対策では、生き甲斐論など云々できるなどと思えないのではなからうか。

日本老残 老残「老いさらばえるの意と辞林には出てくるが久しく死語に近かった。中国では生きていて、遡ると道教の「黄庭経」に「日月之華枝老残」というすばらしい名処方が載っている。日本には老人が増

危機を封じ込めたと思った瞬間、思わぬ方向に危機が拡散している

中東問題用語の解説

浅井 信雄 中東調査会理事



解説の角度

- イラン・イラクの戦争は、タンカー攻撃をまじえて激しく炎上し、武器に勝るイラクが少なくとも全面的敗北はありえないことを誇示した。革命的情熱の鎮静したイランが、宗教的情熱だけでは武器のテクノロジーに敵しえぬことを悟ったことになろうか。
- 緊張の高まりにつれて、アメリカ、ソ連、フランスなどから武器がどんどん流れ込む。石油需給はゆるく、危機が叫ばれるわりには

安心感が漂っている。石油輸出ルートがペルシア湾から紅海に移れば、イ・イ戦争はいよいよローカル化するはずだった。そこに突発した紅海機雷敷設事件は、世間の楽観論の根拠の薄弱さを物語るものだ。危機を封じ込めたと思った瞬間、思わぬ方向に危機が拡散している。

●危機をもて遊んで稼ぐ大国。イスラム主体性高揚。その狭間で生き残りに右往左往する政権。混沌の底に潜む国家や人間の本性を見つめたい。

85年の最新語

カーク島

ペルシア湾の北部にあるイランの主要石油積出し基地。一九八四年春以来、イラク空軍はイランの石油輸出を阻止するため同島周辺のタンカーへの攻撃を強化した。港は島の東側にあり、島の西側は六〇メートルほどの岩壁になっている。このため、イラク軍は港に直接攻撃を加えにくい。

水平線上戦略

アメリカがペルシア湾岸のアラブ王制諸国の安全のためにとっている戦略。これら諸国は、アメリカに地上基地を提供しながらないの、水平線上(Over the horizon)のあなたの艦船に兵員、装備を待機させ、危機が生じた時に急いで介入させようというものである。アメリカに公然と地上基地の使用を認めているのはオマーンだけである。

ホルムズ海峡

ペルシア湾とオマーン湾を結ぶ海峡。世界最大の石油ルートにあたるためその戦略的重要性はきわめて高い。イラン・イラク戦争の進展の中で、イランがホルムズ海峡の封鎖を警告したこと、一躍脚光を浴びるにいたった。

海峽の北側はイラン、南側はオマーン領のムサンダム半島にあたる。オマーン領の北側に二カイリ(約三・七キロ)幅で湾外へ向かう航路帯、その北に二カイリ幅の航路分離帯、さらにその北に二カイリ幅で入湾する船舶の航路帯が設定されている。その北側にオマーン・イラン国境線

が走っている。すべての船舶はオマーン領海内を通るわけである。航路帯の水深は平均七〇メートル、海峽の幅は約五〇メートル。夜のホルムズ海峡はイランとオマーンを結ぶ水路と化し、密輸船でにぎわうという。

バブ・エル・マンデブ海峡

紅海の南の出口にあたる戦略的要衝。バブ・エル・マンデブはアラビア語で「苦難の門」の意味だが、エチオピア、ソマリア、ジブチ、南イエメン、北イエメン

などに囲まれ、親米、親ソ勢力が交錯する接点でもある。一九七三年の第四次中東戦争の時、エジプトと南イエメンがここでイスラエル船の通過を阻止したことがあるが、イラン・イラク戦争を避けて石油輸出ルートをペルシア湾経由から紅海経由に切りかえる計画が進む中で、この海峡の重要性が浮かび上がってきた。海峡の最狭部の幅は約二三キロ、海峡内のペリム島西側の航路帯の水深は約三〇〇メートルである。

紅海機雷敷設事件

一九八四年七月、スエズ湾から紅海にかけた海域で、船舶が機雷に触れて損害を受ける事件が続発した。一月ほどの間に触雷事件は十数件にのぼり、アメリカ、フランス、イギリス、イタリア、ソ連などが掃海を行った。しかし、同年一〇月現在、機雷はもろちん、その破片も発見されていない。だれが敷設したかについては、イラン説とリビア説が出た。イラン説の根拠はイランと交戦中のイラクを支援す

る国々が不利益を受けていること、またリビア説の根拠は最初の触雷事件が発生した直前に、リビア船が北から紅海を抜けた後、また北上して帰国するなどと、不審な行動をとったことなどがあげられた。いずれも状況証拠にすぎず、決め手にはなっていない。この事件を機に、ペルシア湾と並んで紅海の安全保障問題が浮上したといえる。

イスラム・ジハード

ジハードはアラビア語で聖戦を意味し、日本では「イスラム聖戦機構」と訳される。レバノン内戦に介入する外国勢力に対する攻撃がなされるたびに、この組織が名乗りをあげた。アメリカは、イランと関係をもつイスラム・シリア派の隠れミノなどの推測を流しているが、実体は不明。同組織が決行声明を出したのは、一九八三年四月一八日ペイルートのアメリカ大使館が車に積んだ爆弾で攻撃され約二〇〇人の死傷者がでた時、同年一〇月二三日ペイルートで国際監視軍を構成するアメリカ海兵隊司令部とフランス軍本部に爆弾を積んだトラックが突入約三〇〇人の死者がでた時、同年一月二日クウェートでアメリカ、フランス大使館など六カ所がほぼ同時に爆発された時、八月四年七月、紅海で触雷事件が続出した時などである。いろいろなグループが独自に行動を起してはイスラム・ジハードの名で声明を出しているとの見方もある。このうちアメリカ、フランス軍など軍隊に対する襲撃を

最新重要語コラム

アラウイ
アラウイともいう。イスラムの分派といわれるが、シリアの土俗宗教とキリスト教、イスラム教の混在した独自の教義を持つ。シリアのラタキヤを中心に、レバノン、シリア、トルコ一帯にひろがるが、大部分はシリアで、人口の約一割を占める。第一次大戦後、シリアではフランスの委任統治中、主流のスニ派に比べて優遇され、軍、政府、とくに高級将校にアラウイが多い。さらに、シリアを支配しているバース党の幹部にも、アサド大統領以下、アラウイが多いといわれる。しかし、少数派のアラウイが政権を牛耳っていることが、政権の不安定性の一因ともなっている。

テロと呼ぶのは適切ではない。
イラン革命後、自然発生的に生まれて多くの民兵組織が統合され、一九七九年五月に革命防衛隊として発足した。総兵力三十五万以上とされ、正規軍(陸軍一五万、海軍三万、空軍三万五〇〇〇)を大きく上回る。対イラク戦争という純軍事面のほか、国内の反革命分子の警戒にあたる治安面も担当する、ホメイニ師に直属する作戦機関である。行政面は、革命防衛省が管轄する。正規軍とくらべて、軍事技術はやや劣るが、情熱と士気は高い。たゞ革命から時間がたつにしたがって、革命防衛隊の精神的基盤が弱まりつつある。

恐怖には恐怖を イスラエル占領下のヨルダン川西岸地区で一九八三年秋ごろから現れたテロ組織の名前。ユダヤ人の入植活動が進むにつれてアラブ住民との衝突がふえ、ユダヤ人の死傷者も多くなった。逆にアラブ人に対するテロがなされること、「恐怖には恐怖を」が名乗りをあげるようになった。ユダヤ人によるテロ行為とみられ、良識あるユダヤ人からの批判を招いた。西岸の情勢悪化を示す動きだ。

大シリア主義 東アラブは共通の文化的伝統をもち、域内統合の動きが幾つかあった。レバノン、シリア、ヨルダン、パレスチナを統合しようとするものが「大シリア主義」または「大シリア構想」と呼ばれた。これはシリアの民族主義者がとなえたものだ。ほかにシリアとイラクを統合する「肥沃な三日月地帯構想」や、シリアとヨルダンを統合する「大ヨルダン構想」がある。前者は元イラク首相ヌリ・サイードによって、また後者は元トランス・ヨルダン国王アブドゥラーによって唱導された。

中東の構成要素

中東 東はアフガニスタン、西はモロッコ、北はトルコ、南はスーダンまでを、今日では中東と呼んでいる。アラブ

世界、イスラム世界といった概念と共通する要素もあるが、イスラム地域ではあるが、アラブではないアフガニスタン、イラン、トルコなどを含み、また、イスラム諸国とはいえないイスラエル、レバノンなども含まれる。ヨーロッパからみて中東、近東、極東といったのが語源であり、これに反発して西アジア・北アフリカあるいは中東と呼ぶ人もいるが、中東の人は、やはり、この地域を中東と呼んでいる。ソマリアやモーリタニアまで中東と呼ぶこともある。

近東 ヨーロッパから東方、東洋を見た場合に、極東、東洋に至るまでの地域を近東、中東などと呼んだ。近東とは、主としてオスマン・トルコの領域、バルカン半島、アナトリア、エジプト、シリア、メソポタミアを指した。しかし、その場合、中東と独立して呼ぶことは少なく、ヨーロッパからインドに至るまでの地域を漠然と中近東と呼んでいた。中近東から中東ということばが、独立して一般的に使われるようになったのは、第二次世界大戦後のことである。

スニ派

スニ派 イスラムの多数派で正統派ともいわれる。イスラムの特徴は、分派の比重が他の宗教に比して著しく小さいことといえる。イスラム法と預言者マホメットのスンナ(確定された慣習・権威)とを信仰の基礎とする。カリフ(後継者)の歴史、すなわちイスラムの現実的・歴史的発展をそのまま承認

する立場に立つ。イスラム法の解釈の細部において、ハナフィー学派、マリーク学派、シャーフイ学派、ハンバル学派の四学派に分かれてはいるが、それらの間の違いは大きなものではない。

シーア派

シーア派 スニ派に対立するイスラムの分派。シーア派の中にも、多くの分派がある。預言者マホメットの従弟であるアリーの子孫に後継者の権威を認める。隠れイマームやメシア思想をイスラムに導入、政治的にも大きな影響を与えた。イランの国教は、シーア派の中でも一二イマーム派。同派は南レバノンにもいる。別にイスマイル派があり、主にレバノン、シリアに在る。ドルーズ派、アラウイ派は、イスマイル派から分かれたもの。ほかにザイイド派があり、北イエメンに多い。

ドルーズ

ドルーズ ファアティマ朝カリフ・ハキムの神格化から起こった宗派で、イスラム系だが、イスラム教徒一般はイスラムを逸脱した異端と見る。ドルーズ教徒は、レバノン、シリア、イスラエルに計四五万人がいる。山岳地に住み、動乱の中心にはこの人々がいだが、レバノンではジュムブラットが進歩社会党(別項)を起し、レバノン内戦においてパレスチナ人と共闘した。イスラエルではイスラム他宗派との歴史的確執からユダヤ人側につき、そのため裁判権ほか特典を与えられ、兵役にもついていた。しかし近年イスラエル政府への批判が強まり、ことに一九八一年二月、

イスラエルが六七年以来シリアから奪い、占領下に置いていたゴラン高原を併合すると、同地住民を含めて反発が激化した。八二年六月イスラエル軍がレバノンに侵攻して以来、レバノンのドルーズ派民兵はイスラエルと協調的な政府軍やフアランジスト(別項)軍と武力抗争を続け、八三年八月には首都ベイルートにまで戦火を拡大させ、九月イスラエル軍の撤収したシェーフ山岳地帯でフアランジスト軍と大規模な衝突をした。内戦の鎮静後、レバノン中央政府の構成を宗派で均衡させる交渉が行われたが、ドルーズ派はつねに大きな発言権を行使した。

ワッハブ派

ワッハブ派 スニ派に属するが、イスラムの純化を主張し、復古主義的傾向が強い。サウジアラビアで支配的。一八世紀、アラビア半島のナジュドのアブドル・ワッハブが創始し、サウード家と結び付き、アラビア半島一帯に勢力を拡大した。コーランと預言書の慣行(スンナ)を重視し、スーフイズム(神秘主義)をきびしく排除する。とくに、聖者や墓の崇拜、偶像崇拜を禁止し、信者には、ピュアリタンのな生活態度を要求する。近代のイスラム再生運動の原動力となった。

マロン派

マロン派 東方教会のひとつで、もともと早くカトリック勢力のがわに移行した。キリスト論(モノテリズム)を持ち、七世紀以後以来、イスラムなどの迫害に耐え、レバノン山中に隠れ住み、信仰を守り続けた。

世相を追いかける 毎日の新聞を見ていると、これからの世の中どうなるのかと思うほど新商品が続々と開発されニュービジネスがニョキニョキ生れている。メカトロゴルフ場、結婚銀行、オモチャの病院、エアロビクス、ファックス塾…。このままではマラソン塾や棒高飛び塾なども出現しそうだ

ビデオという
エレクトロロクス・メディアの
急速な発達と普及は、日本の
芸術の領域にも
「ビデオ・アート」と呼ばれる
新しい表現様式が
進出している。

ビデオアート

一九六四年日本の
電子機器メーカーによって
開発されたライオンによって
家庭用小型ビデオは、
これまで専門家の
コントロール下にあった映像製作を
一般に開放した。
放送用ビデオにはない軽便さと
経済性によって、
たちまちアメリカの若い世代に
受け入れられた。
自分たちの情報を自分たちの伝言機
「通真」として迎えられることになり、
日本でも
八〇年代に入り本格的な作品が
手がけられるようになった。
現代美術の新しいジャンルとして
美術館や画廊の展示に
加え、テレビやビデオの普及によって



【写真】……丹野清志
【撮影協力】……東京都美術館 佐谷画廊

○ナムジュン・バイク
ビデオアートのジョージ・ワシントンとも、導師とも呼ばれる先駆者で、世界のビデオアートの文字通り第一人者。作曲家、ピアニストでもある。一九八四年六月、東京都美術館で開催された展覧会で、モニター七十八台を三角形に組上げた「トウキョウ・マトリクス」をはじめ、鉢植えの間にモニターがひそむ「TV庭園」など、映像フランス音声の効果で、ビデオの魅力をふんだんに見せてくれた。

⑤「TV庭園」
⑥「ワイラミッド」
⑦「パート・ウィルソン」
現代演劇の第一人者として知られるウィルソンの「ビデオ50」は、一ショット三〇秒のイメージが、なんと二〇〇通りも並んでいる。テレビCMを思わせる意表をついた作品。

①②「ビデオ50」
③「ビル・ヴィオラ」
アメリカの若手ビデオ作家として最も注目されている。「フォーリングクス」は、時間の視覚化とでもいおうか、昼と夜がゆっくりと重なるなど不思議な世界を描いている。

⑦「フォー・ソングス」
○松本俊夫
コンピュータとビデオを結びつけて、肉眼では見ることのできないビデオ独自の映像世界を追求している。「フォー・メーション」は、ビデオ・シンセサイザーによって作られた。

③「モナ・リザ」
④「フォー・メーション」

何となくクリスタル 学生作家時代の田中康夫の作品の題名。これがそのまま1981年の流行語になった。略して「なんクリ」「なんクリ族」「クリスタル族」などの派生語を生んだ。この小説はじっくり読ませるといようなものではなく、そこに出てくる数百の注のブランド情報を使い捨てにする

ヒット商品・ヒット企画 84

「四万十の青き流れを忘れめや」の上林暁、幸徳秋水の出身地。鮎釣

- ① エリマキトカゲ 好奇心にグサリの企画。その逃げ去る姿に誰もがビックリ。三菱「ミラージュ」の広告が火をつけ人形もフォームとして来日エリマキ君の急死のニュース、と兼州のロアを抜いて日本を駆けぬけた。
- ② CATS 劇団四季の公演。人が猫を演じるミュージカル。猫フォームと、ごっこ遊びを見事に結びつけたミュージカル企画である。新宿に特設されたキャッツシアターで、一年間の連続公演の記録を達成。
- ③ マイケル・ジャクソン レコードセールス世界記録を更新の「スリラー」。自らのプロデュースしたビデオメイキング・オブ「スリラー」へストロン社とさらに話題騒然の全米ツアーと世界中をツアーさせるとの天威。
- ④ オールナイトワジ とにかく潮のこらないイマタサ企画。土曜の夜というおもしろいイマタサ企画。土曜の夜というおもしろいイマタサ企画。土曜の夜というおもしろいイマタサ企画。土曜の夜というおもしろいイマタサ企画。
- ⑤ 浅田彰 「構造と力」逃走論と連続ヒットの京都大学人文科学研究所助手、二十七歳。スキップ、パラノなどの言葉を広める。知識の飽和状態ゆえの飢餓感を狙い打ちする。思想界の若き企画人といえよう。

丸の内企画人クラブ 編



いま日本は
いまだですすまじい
刺激的だ。
五木寛之



貨車の車体部分売ります
広さタタミ13畳分
倉庫、喫茶店、クラブハウスなどに
手付金10万円
地方貸付 借付

⑥ NEXT WAVE 筋肉、ダンス、写真、そして音楽の分野で自分のカラダを創造の源とするリサ・ライオンら四人の米国女性によるパフォーマンス展「赤坂ラフォーレ」レジーア・ジョアムにて。男性・女性を超えた「個性の企画」。

⑦ 風の谷のナウシカ ナウシカの愛が地球を救う大作。歴代アニメ屈指の名作と高い評価。シンボルマーク発表から、ファンクラブレコード、出版と及々にヒットのヤマ場を仕掛けた「山脈企画」といえる。

⑧ エキゾチック・ジャパン キャンペーンタイトルは五木寛之の言葉。国鉄による新しい日本の魅力の発見、それは日本が美は外国から出来ている、であった。ルート大好き日本人に対する、堂々正面からの大和心企画。

⑨ 国鉄貨車売出し 合理化とより余剰となった貨車を販売。車両をはずした丈夫な箱が20万円前後。様々な改装できるメトリックも加わり、売切れの車種も。神戸駅に立つ国鉄が面白い。際立ちを見いだした「際発見企画」。

出口・入口・表・裏 出口王仁三郎といえば戦前、不敬罪、治安維持法違反などを理由に政府から弾圧をうけた大本教の総帥。出口姓はそれだけ知られているが事実、出口姓を名乗る人は結構多い。「出口」がいるなら「入口」は? と搜してみると、東京都内版の電話帳だけで10人を超える人がいる。